

平成30年度 能美市立辰口中学校 学校評価

| 重点目標 (めざす姿) | 具体的方策 | 主担当 | 【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞ | 【評価の根拠】 達成度判断基準 | 取組状況 | 評価 | 学校関係者評価者 による意見 | 今後の改善策 |
|----------------|-------------|-------|--|---|--|----|---|---|
| 1 | 組織的な学校運営 | 教頭・教務 | ＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。 | ＜教職員アンケート＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。 | ◇校長の経営ビジョンに基づき、定期的な学年会や各種部会を開き、情報の共有や意思疎通を図るよう心がけてきた。また、短時間の研修等で若手教員の資質向上を図ってきた。 | B | ○「気づき」を大切にしているところは続けていただきたい。 ○子どもたちの居場所があれば、一人一人が救われる。心の居場所づくりを大切にしていきたい。 ○勤務時間について、PTAの会合等で夜学校に来ると、先生方が沢山遅くまで残っていて大変だと思う。機械警備の設定時間を早めてはどうか。 | ◇若手の研修だけではなく、中堅・ベテランも含めた短時間の研修等を行い、全体の資質向上に努める。 ◇勤務時間の短縮については、優先順位を付け見直しを持つことや、効率をあげる仕事の仕方をさらに意識して取り組む。 ◇親和的学級づくり、生徒の心の居場所づくりを更にすすめていく。 |
| | | | ＜努力指標＞ 学校行事等の機会を捉えて成果や課題の検証を行い、よりよくすることに努めたり、見直しを持ち勤務時間の10%短縮に努めたりしている。 | ＜教職員アンケート＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見直しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を10%短縮できたか。 | ◇辰人ロードマップを活用し、「気づき」を活かしてカリキュラム・マネジメントの充実を図っている。課題意識は向上しているが、勤務時間の短縮は目標値に達していない。 | B | | |
| | | | ＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。 | ＜教職員アンケート＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校の生徒に対し、早期に適切な対応ができたか。 | ◇毎週教育相談の会を行って情報共有して今後の方針を確認し、組織的対応に努めている。 ◇問題への早期対応も意識できており、不登校の生徒は多いが、完全不登校はいない。 | A | | |
| 2 | 確かな学力の育成(知) | 教務・研究 | ＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。 | ＜教職員アンケート＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。 | ◇授業の終末における「まとめと振り返り」については、教員も生徒も意識しているが、タイムマネジメントや深い学びに繋げるコーディネートは充分とはいえない。校内研修で共有した方法を共通実践する必要がある。 | B | ○思ったような改善ができていないのがことだが、土曜日があった頃を考えると、今は授業のスピードが早いということはないのか。一人一人のサポートができて、授業としてゆったりと関わられる時間の確保が大切ではないか。 ○学校だけでは無理だと思うが、市全体で夏休みの後半から授業を入れていくことは考えられないか。 | ◇タイムマネジメント・学習課題に応じた適切なまとめと振り返りの仕方をこれからも研究していく。 ◇授業での深める場面をさらに充実させるために「思考ツール」を導入した。今後、積極的に活用していく。 ◇学力の向上については、教師自身が検証結果を常に念頭に置いて、授業を振り返り、改善していく。 |
| | | | ＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。 | ＜教職員アンケート＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につく、授業がわかり、できるようになった実感があるか。 | ◇「わかる・できる」授業の実感について向上はしているが、「つかむ、深める、まとめる」の学習過程を意識して、これからも授業づくりを行うことが大切である。 | B | | |
| | | | ＜成果指標＞ 辰人ロードマップを活用し、様々な面から思考力・判断力・表現力の向上に努めている。 | ＜教職員アンケート＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。 | ◇学力の検証と学びの改善について、教職員アンケートの結果も良好とはいえず、まだまだ学力の顕著な向上にもつなげられていない。 | B | | |
| 3 | 豊かな心の育成(徳) | 研究 | ＜満足度指標＞ 中心発問を吟味し、言語活動を通して生徒の道徳的価値を深めようとしている。 | ＜生徒アンケート＞ 道徳の時間では自分の考えを友達と交流し、いろいろな角度から考えを深めることができたか。 | ◇自分の考えを友達と交流し、多様な考え方に気付く生徒が多く、自分の将来に生かせると感じている。 ◇教師は「考え話し合う道徳」について、さらに共通理解を深める必要がある。 | A | ○授業を見て回り、クラスの後ろに道徳の感想が蓄積されて掲示されていたことがよい。人の考え、自分と違う考えを知れたり、自分の恥ずかしさをオープンにできたりしていることが素晴らしい。 ○アンケートから、道徳に関わる3年生の結果がよいのは、3年生になるとそれだけ感じる力が付いてくるからなのか。 | ◇道徳の教科化に向けて、基本的な授業スタイルや評価の仕方について、早々に準備を進めていく。 ◇自己有用感を高める取組を継続して行っていく。 ◇Q-Uアンケートの使い方、活かし方を考えていく。 |
| | | | ＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。 | ＜生徒アンケート＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。 | ◇生徒会活動やボランティア活動への参加意識が高く、人の役に立ちたいと思っている生徒が増えている。 | A | | |
| | | | ＜努力指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。 | ＜教職員アンケート＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。 | ◇教師は、Q-Uアンケート、生徒理解面談や日常のかかわりを通して、親和的な学級づくりに努めている。 ◇自己肯定感が高い生徒は多いが、そうでない生徒も少なくない。 | B | | |
| 4 | 健やかな体の育成(体) | 保健美化 | ＜成果指標＞ 教科体育や部活動を通じ、体力の向上や粘り強く努力する心づくりに努めている。 | ＜各種調査＞ 身体計測・スポーツテストの結果が向上しているか。 ＜教職員アンケート＞ 生徒が仲間と励まし合い粘り強く努力する姿は向上しているか。 | ◇体格的に2・3年生は平均的、1年生は小さい。体育科の調査では、数値としての大幅な改善は見られないが、向上傾向にある。 ◇生徒同士の人間関係については固定化が見られるので、広げる手立てが必要である。 | A | ○子どもの小さな変化を感じ取り見逃さないというは、先生は職業的にできているかも知れないが、家庭では難しいこともあるのではないかと。学校と家庭が協力連携できるとよい。 ○インターネット等は家ではどのような状況か。スマホ等のルールは作っているが、部屋に入るとわからない、管理しきれないところもあるのではないかと。 | ◇部活動や行事を通して、生徒同士の励ましや粘り強く努力する姿勢を高めていく。 ◇アンテナを高くし、生徒の小さな変化を見逃さず、情報交換を密にする。 ◇各家庭での協力を呼びかける。 ◇ネットトラブル防止に向けた講演会の開催等を行い、意識の向上を図っていく。 |
| | | | ＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。 | ＜保護者アンケート＞ 学校は、不安を持っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。 | ◇教育相談の会を活かすなど、教職員は意識して取り組んでいるが、不十分だと感じている保護者も見られる。 | B | | |
| | | | ＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。 | ＜保護者アンケート＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。 | ◇学校で呼びかけはしているが、時間の3点確保を意識している生徒は7割程度、フィルタリングやルール作りを行っている保護者も6割程度と不十分である。 | B | | |
| 5 | 家庭や地域との連携 | 教務・研究 | ＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考えさせるように努めている。 | ＜教職員アンケート＞ キャリア教育の視点を持ち、地域を生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート＞ 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。 | ◇地域とのつながりを意識している生徒が多い。課題研究でのポイントが高く、地域の教育資源を効果的に活用できている。 | A | ○卒業して5～10年くらいの卒業生の話は聞いてはどうか。歳の近いモデルとして、高校を決める際に「この高校ではこんな仕事に就けた。こんな大学へ行った。」という話を聞かせてもらえば、点数ではなく目標をもって選べるのではないかと。 | ◇外部講師バンクをつくり、様々な教科・領域でより効果的に地域人材を活用できるよう、新たな講師を確保する。 ◇学校として、さらなる情報の発信に努めるとともに、ホームページ等を見てもらえるようなアピールなども行う。 |
| | | | ＜努力指標＞ 学校からの通信やホームページ、メール配信システムを適確に活用している。 | ＜保護者アンケート＞ 通信やホームページに目を通し、学校の情報を把握しているか。 | ◇学年だより、学級通信の他、学校は昨年と比べ意識的にホームページの更新などの情報発信をこまめに行うことを心がけているが、そう感じていなかったり、わからなかったりする保護者も少なくない。 | B | | |